

平成26年度 公の施設目標管理型評価書【指定管理者施設用】

施設名	白根北児童館		
管理者名	特定非営利活動法人 ワーカーズコープ	指定期間	平成24年2月1日 ~ 平成27年3月31日
担当課	南区役所健康福祉課		
所在地	新潟市南区鷲ノ木新田5402番地		
根拠法令	児童福祉法		
設置条例	新潟市児童館条例		
施設概要	敷地面積 2,895.10㎡ 建築面積 330.0㎡ 延床面積 330.0㎡ 構成施設の内容 1階 集会室 (50.00㎡), 図書室 (30.00㎡), 事務室 (20.00㎡), 遊戯室 (140.00㎡), 静養室 (9.00㎡) トイレ (23.65㎡), その他 (57.35㎡)		

施設設置目的
<p>旧白根市北部地域における地域児童の健全育成支援や育児不安に陥りがちな母親支援を目的として、子どもが自由に遊べる屋内遊戯の場と子育て支援を行う場併せ持つ施設として児童館を設置する。</p>
管理・運営に関する基本理念, 方針等
<p>運営理念</p> <p>子ども、親、地域住民が主体的に運営に参加し、地域子育て支援の拠点、地域コミュニティの核となる児童館を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者、家族、地域住民が運営や活動に主体的に参加することを重視します。 ・納得できるまでの話し合いを重視し、情報の共有を進めます。 ・ハンディのある人、他世代の人たちがともにある場の創造を目指します。 ・個別性を大切にし、新しいニーズに応える、柔軟で応答性の高い運営を目指します。 ・職員の主体的な働き方と、実践を通じた学習、事例検討、記録を重視する。 <p>基本方針</p> <p>① 子どもたちの成長への貢献 地域での人と人とのつながりが希薄になっているなかで、児童館には異年齢の子どもたちが、互いに教えたり教えられたりしながら、遊びあう姿があります。 児童館におけるあそびや活動を通じて子どもたちの成長に何よりも価値を置き、その取り組みを地域に広がります。そのためにも、子どもが自ら運営に参加し、主人公となり、育ちあう場を目指します。</p> <p>② 親の支援への貢献 家庭での子育ての不安、孤独、孤立を解消し、地域の中で親どうしの交流の場や学びの場、支えあいの場をたくさん創り出します。また、働く親の多様なニーズに応じて、仕事と子育ての両立を応援します。</p> <p>③ 地域の再生とまちづくりへの貢献 子どもたちの成長を地域で見守り、さまざまな世代の人たちの関わりのなかで子育てを応援していく「地域のひととの関係の再生」が根本的なテーマであると考えます。 児童館のさまざまな行事や講座などを通して、子育て支援に関心のある地域の方との出会いを広げます。そして、子ども・親・高齢者の三世代交流や、子育てをコミュニティで支えあう活動への地域の方たちの参加を広げます。また、近隣の地域で活動しているさまざまな団体・グループと協力しあい、子どもの安全や地域で見守るネットワークを築いていきます。そして、子育てしやすいまちづくりを地域のみなさんと一緒に進めます。</p>

視 点	評価項目	評価指標	実績	評価 ※	評価コメント ※
市 民	広報の充実	行事日より、ホームページ等による児童センター活動に関する情報発信 2回以上/月	・毎月、区報「みなみ風」にメイン行事を掲載しています。 ・月1回、児童館発行の行事便り発行。 ホームページを更新しています。	B	南区役所だよりやホームページにより、積極的に広報活動を行っていると認められます。
	基準利用者数の達成	来館者数(年)(基準:50人×358日) 17,000人/年 以上	H26年度の年間来館者数 15,501人 1日平均 43.3人	C	残念ながら目標の来館者数には達しませんでした。原因を分析し、ニーズに沿った事業展開が期待されます。
	利用者の満足度	利用者アンケートの実施 2回以上/年	夏祭り、3周年祭、ちびっこ運動会、ミニミニ運動会後に利用者を対象に実施しました。	B	イベント開催時にアンケートを実施し、利用者ニーズの把握に努めています。
	苦情・要望に対する対応	原則1週間以内の回答 苦情・要望の対応マニュアルの整備	・苦情はありませんでした。 ・苦情、対応マニュアルはワーカーズコープとして整備されています。	B	マニュアルが整備され、職員間での意識も徹底されています。
	事業の実施	・乳幼児向け、小中高向け事業の実施数 4回以上/月 ・地域・関係機関との連携事業実施数 2回以上/年	・乳幼児向けイベントとして、いちごタイム1回/週、作って遊ぼう1回/月、0、1歳児向けのコアラタイム1回/月、2、3歳児向けのパンダタイム1回/月実施。 ・小学生向けイベントとして、わくわくタイム1回/週、作って遊ぼう1回/月実施。 ・中高生向けイベントとして、中高生タイム/毎日実施。 ・地域のボランティア団体と一緒にバスでお出かけを開催。その他、各地区のコミュニティ協議会と連携をとり地域のイベントに参加。	A	趣向を凝らして魅力ある様々な事業展開に努めていると認められます。また、地域とも密接に連携しています。
財 務	業務の効率化	施設利用者1人当たり運営経費 1,250円以下	・平成26年度の指定管理料は年間19,416,000円 19,416,000円÷15,501=1,252.56円 1人あたり約1,252円。	B	節電や資源の再利用等により、経費の節減に努めていると認められます。
	設置目的の理解	・地域運営委員会の実施数 2回以上/年 ・業務仕様書に定める事項の遵守 違反回数0回 ・建築設備の保守管理 協定書に定める回数以上	・地域運営協議会を7月と2月に開催。 ・業務仕様書に定める事項の違反はありませんでした。 ・協定書に定められている建築設備の保守管理は規定回数実施。	B	地域運営協議会では委員に積極的に意見を求め、事業運営に活かしていると認められます。また、定められた建築設備の保守管理を遵守しており、適正な管理に努めています。

業 務	情報の伝達と共有	苦情・事故発生時の早期報告	苦情や事故発生時には早期に担当課に連絡を取り、その後苦情、事故報告書を提出します。	B	苦情・事故発生時の早期対応や関係機関との情報共有に努めていると認められます。
	安全安心の確保	防災訓練実施回数年2回以上	7月に火災を想定した避難訓練を、また12月には地震を想定した避難訓練を実施しました。7月は初期消火訓練も合わせて行いました。	B	目的に応じた訓練を実施し、危機管理意識の向上に努めています。
	コンプライアンスの確立	児童福祉法、新潟市児童館条例の遵守、個人情報等の守秘義務マニュアルの整備	個人情報や外部記録、媒体に記録せず保管。保管場所には施錠も行っています。	B	個人情報の漏えい防止の取り組みを徹底しています。
	業務仕様書等に定める事項の遵守	その他業務仕様書等に定める事項の遵守	・その他業務仕様書等に定める事項も違反なし。	B	施設管理及び事業運営にワーカースコープとして組織的に取り組み、常に仕様書に定める事項の遵守に努めていると認められます。
人 材	配置人員条件の水準維持・育成の適切性	業務仕様書に定める人員配置 配置人員のミッションの理解度とスキルの習得度 年2回以上の研修実施	・業務仕様書に定めてある有資格者6人体制をとり、業務を行っています。 ・新潟市が行っている研修・連絡会に参加しました。	B	ローテーションにより人員を適正に配置するとともに人材育成にも努めています。

【評価基準】

- A: 要求水準(評価指標)を達成し、かつその達成度・内容が優れている
 B: 要求水準(評価指標)が達成されている
 C: 要求水準(評価指標)が達成されていない

指定管理者記載欄(アピールしたい事項・未達成項目への改善策等)

白根北児童館では0歳から18歳までの利用がありますが、3オン3コートやバドミントン等の設備があることから、中高生の利用も多いことが特色ではないかと思えます。そこで多世代交流が生まれ、社会性や自立性を学ぶ場にもなっていると思えます。

また、農園があることで、子どもたちは野菜の苗植えから収穫の喜びまでを体験できることで食育に繋がっていると思えます。地域のボランティア団体さんからは季節の花植えやお祭りの等に積極的に協力を頂いており、地域の方々から守られながら伸び伸びと子ども達は過ごしています。昨年度、平日の小学生の来館者数が伸び悩んだ時期があり、要求水準が達成されなかったのは天候や下校時刻が遅い頃であったため、今年度は平日に保育園や小学校へ動児童館等で出向き、積極的に児童館をPRしていきたいと思っています。

所 管 課 に よ る 総 合 評 価 (所 見)

目標の来館者数を達成することができませんでしたが、原因を分析し、次年度に向けて対応策を検討しており、改善に取り組んでいることが窺えます。

また、地域との関係も非常に良好で、事業の実施の際に密接に連携しており、子どもたちを地域の方々と一緒に見守る形が年々強化されていると認められます。

施設管理についても、引き続き職員間で施設の清掃や草刈りを行い施設の維持管理に努めるとともに、草刈り等外構の手入れの時間を児童の通学時間に合わせて児童との触れ合いの機会を積極的に作る等、単なる施設管理に留まらず、児童館の目的達成に結びついています。

市民・財務・業務・人材すべての視点において、来館者数を除いてほぼ要求水準を満たし、指定管理者として良好であると認められます。

年別に魅力的な事業を積極的に展開していることから、それをいかに利用者増に結び付けることができるか検討し、事業実施後のアンケート等を活用して利用者のニーズを的確に把握して、効果的な事業展開に引き続き努めていくことを期待しています。